

『子どもが主役！生きる力を付ける』授業

「野菜ができた」「おいしいものを作りたいな」「何が作れるかな」「ピザにしよう」「どうやって作るのかな」「上手に作れた」「僕は野菜を切ることを担当するよ」「友達にも作ってあげたいな」「パーティーを開こう」「家でも作ってみたい」「他の野菜も育ててみたい」

生活単元学習では、このような子どもの思いや気付きから単元が生まれ、学習が展開していきます。体験を通して達成感や満足感などの学びの実感が得られ、次の活動への意欲が高まり、自立した生活に必要な力を育むことにつながります。

■ ポイント 1

子どもがめあてと見通しを持って主体的な学習に取り組みます

○子どもの実態から生活上の目標や課題を見出し、単元やテーマを設定します

- ・子どもが「これをやろう」と目的が持てるよう、興味・関心に即した魅力ある単元を構想し、進んで取り組めるよう子どもの気持ちを育てます。
- ・「どうしよう」「何が必要かな」と考え、話し合い、準備や練習を行います。
- ・目標の達成に向けた単元計画に沿って、役割を分担して実際的な活動を行います。
- ・目標(課題)を達成した満足感、成就感を仲間と共有し、振り返りをして意欲を次の活動につなげます。

■ ポイント 2

取り組む姿勢(関心・意欲・態度)、人と関わる力(社会性、コミュニケーション)、自分でできる力(知識・技能)を観点として、目標を設定します

○仲間と共同で取り組む中で、一人一人が自分に合った活動に精一杯取り組み、課題を達成して満足感、成就感を味わえるようにします

- ・子ども一人一人の願う姿を明確にし、教材・教具や教師の支援、手立て等を計画します。
- ・達成可能な目標にして、「できた、やった、またやりたい」という気持ちを高めます。
- ・同じテーマの活動でも、難易度や目標数を個々の実態に合わせます。自分自身の達成感を味わうとともに、仲間同士で認め合うことを大切にします。

■ ポイント 3

教師集団で子どもの表れを捉え、指導と評価の一体化を図って授業を改善していきます

○子どもの目標の達成度とともに、活動内容、環境設定、教材・教具、教師の働き掛け(ティーム・ティーチングの機能)などの視点から授業を評価・分析し、次時の授業を改善します。

- ・単元展開中の子どもの気持ちや活動への意欲が、テーマに向かって高まっているか、評価を毎時間行い、個々の気持ちに沿って活動内容や活動量を変更・調整します。
- ・子どもが主体的に学んだ有効な手立てについて、教師間で共有します。

■ 実践事例(小学部6年生)

単元名 「レッツトライ!ピザパーティー!」(小学部6年 12名)

- 単元目標
- ・自分たちで育てた野菜を使ってピザを作って食べることを楽しみに、自分の仕事に最後まで取り組もうとする。(関心・意欲・態度)
 - ・ピザパーティーに向けた一連の活動を通して、友達と協力してやり遂げる喜びを味わう。(役割・コミュニケーション)
 - ・身近な調理用具の安全な使い方を理解し、分担された調理を行う。(知識・技能)
- (本時 8/11時)

本時では、個々の目標まで落とし込みます。

学習活動	指導上の留意点(★手立て ◎願う姿)			
	A・B・C	D・E・F	G・H・I	J・K・L
5年生が喜ぶピザパーティーをしよう。	・「ミニトマト、トウモロコシ、枝豆、バジル」今日もピザを作ろう。 ・5年生2クラス、6年生2クラスだから、4枚作ろう。 ・身支度、手洗い、消毒をしよう。 ◎自分でできたか(やろうとしたか) ・自分たちの仕事をしよう。 ◎協力してできたか(やろうとしたか)			
グループごと具材の準備をしよう。	ミニトマト、ウインナー	トウモロコシ	枝豆	バジル、ハム
	★各自が扱える道具を用意する。(包丁、ピーラー、ガスコンロ、レンジ等)			
	・へたを取って洗い、4等分に切る。 ・ウインナーを4等分に切る。	・皮をむき洗う。レンジに3分かける。 ・冷ましてカッターでほぐす。	・洗う。鍋に水を入れ沸騰後5分煮る。 ・ざるにあげ、豆を取り出す。	・ハムを棒状に切る(ちぎる)。 ・バジルを洗う。
トレイに並べよう。	具材は1種類ごと4皿(ピザ4枚分)に分ける。 ★手順表を見ながら、各自考えながら活動しているか評価する。 ★子ども同士が教え合い話し合っって仕事を進めることができるよう子どもから質問や援助依頼があったら適切に対応する。			
クラスごとトッピングして焼こう。	◎ピザ台(生地)に各自が切った具材を順番にトッピングする。 ◎「Aさんのトマト上手」「G君の枝豆おいしそう」「みんなすごい」 ◎「できた」「オープンで焼こう」「タイマーを5分にセットするよ」 ◎「5年生を呼んでくるね」「切ってお皿に盛ろう」「お茶の用意をす			
ピザパーティーを始めよう。	◎「僕たちが育てた野菜でピザを作りました」「食べてください」 ◎「いただきます」「野菜おいしいね」「6年生すごいね」 「私たちも6年生になったら作りたい」「ごちそうさまでした」			
片付けをしよう。	・使った食器や用具を洗い、布巾で拭く。調理室の清掃。			
振り返りをしよう。	◎「やった。5年生が喜んでくれた」「次は参観日にお母さんたちに食べてもらおう」 「野菜がもっとできるかな。畑を見に行こう」 「包丁がうまく使えるようになった」 「家でも作りたい」			

個の表れから手立てを評価し、できる状態に改善します。

一人一人が活躍できる活動を設定します。

子どもの気持ちを引き出し主体的な活動につなげます。

できたことを次の活動や生活に生かそうとする気持ちを高めます。

どの子ども笑顔で輝くために！『個々の学びのスタイルに応じた』授業

自閉症・情緒障害学級の子どもは、認知のアンバランスやコミュニケーションの困難さなどから成功体験が乏しく、「分からない」「どうせ私にはできない」「イライラする」といった思いを抱きがちです。一人一人独自の学びのスタイルがあるため、子どもの発達や心理的状况等、その実態を的確に把握し、安心して取り組める環境と授業を設定しましょう。そうすることで、「僕にもできた」「次もがんばろう」「僕ってすごい」という成功体験が積み重なり、意欲や自尊感情を高めることができます。

■ ポイント 1

自閉症の特性に応じた支援を行い、授業を組み立てる

- 発達の状態や心理的状况、認知特性など、多面的に実態を把握する
 - ・認知の特性を医学的・科学的根拠に基づいて実態把握した上で支援を行います。
 - ・どのような支援があれば学習内容を理解し、技能を習得することができるのか、子どもの実態を把握します。
 - ・「視覚優位」「聴覚優位」など、子どもの強みを支援に生かすことを大切にします。
- 心理的に安定できる学習形態（個別・小集団）と学習環境を設定する
 - ・付けたい力を身に付けるために効果的な学習形態を取り入れていきます。
 - ・整理された刺激の少ない教室環境を設定します。（パーテーションなどの活用）

■ ポイント 2

授業をシステム化し、個々の学びを充実する

- 子どもの学びの中を「わたる」
 - ・1時間の授業の中で、一人一人の目標を設定し、その目標を達成するために適切な支援を行うことが重要です。
 - ・教師は個々の子どもにとって適切なタイミングとなるよう、意図的に行き来する（わたる）ことができるよう授業を組み立てます。そのために、「教師と一緒に学ぶ」時間と、「一人学び」の時間を組み合わせると効果的です。「教師と一緒に学ぶ」ことで付けたい力に迫り、「一人学び」の時間は、子どもが一人で学習を進めることができるよう、内容の手順や量、プリント類の置き場などを工夫して、授業を組み立てていきます。
 - ・子どもの座席の配置と教師のよりよい動線を意識した授業環境を設定します。
 - ・1時間の授業をブロックに分けるなどして、子どもが気分転換やリラックスができるよう努め、学びを持続させ、集中力を高めるようにします。

■ ポイント 3

一人でもできる環境を設定し、授業で自己肯定感を高める

- 一人でもできる学習環境を設定する
 - ・学習に「視覚化」「構造化」「繰り返しのある内容」を取り入れ、目的意識を持って取り組むことができるように設定し、空白の時間をつくらないようにします。
- 子どもの主体性を引き出せる教材を吟味する
 - ・心を引き付けるもの、分かりやすいもの、扱いやすいものを設定します。（実践事例参照）
- 「できた」「分かった」を積み重ねていく
 - ・的確に子どもの表れを認め、価値付けていきます。
 - ・既習事項を日常生活の中で活用する場面を意図的に設定し、「学び」が生活で活用できるよさを実感させることが大切です。

■ 実践事例(小学校)

教科：算数

単元名：測ってみよう！計算しよう！（量と測定）【8/12時】

★個に応じた支援 ◇評価

Aさん（2年生）	Bさん（4年生）	Cさん（5年生）
【単元に関する実態】 左右の手で同時に別の動作を行うことに難があり、目盛りを正確に合わせるのが難しい。	【単元に関する実態】 子どもの実態と学習内容から、付けたい力（目標）が設定されます。つまり、在籍する子どもの数だけ目標があり、その目標を達成するために、個々に応じた具体的な支援が必要です。	【単元に関する実態】 計算において位を意識してするミスが多い。繰り上がり計算を苦手とする。
【本時の目標】 ものさしを3本の指で押さえて目盛り正しく合わせ、20 cmまでの長さを計測することができる。	を正確に行うことができる。	【本時の目標】 やcmの単位をそろえて、繰り上がりのある足し算の筆算を行うことができる。

みんなでチャレンジ！Part1 『奇数と偶数に分けよう』

※学習の流れ・量を明確にする

①ものさしで測ってみよう！Part 1

★好きなキャラクターの吹き出しがあったワークシートを使用する。

★左手で押さえることを意識するために、ものさしにシールを3カ所貼る。

②cmとmmの単位をノートに書いてみよう！

③かけ算九九の計算にチャレンジゴー！（復習）

④身の周りのものを、測ってみよう！Part 2

◇端を0に合わせて目盛りを正確によむことができたか。

みんなでチャレンジ！Part 2 『積み木を積み上げて高さ勝負』

※事前に、負けても怒らない、泣かないのルールの確認

【振り返り】・シールに指をおいたら、ずれなくて20 cmまで測れたよ！

・お金と同じように考えたら10 mmが1 cmに変身することが簡単だったよ！

子どもの実態と学習内容から、付けたい力（目標）が設定されます。つまり、在籍する子どもの数だけ目標があり、その目標を達成するために、個々に応じた具体的な支援が必要です。

状況に応じて、「関わり」の場面を設定すると効果的です。

『教師と一緒に学ぶ時間』を個々の子どもに設定し、意図的に行き来する（「わたる」）ようにします。→は「わたる」教師の動きです。その間、他の子は『一人学び』ができるように授業を整えます。

座席

Aさん

Bさん

Cさん

←パーテーション